

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>ユーグレナ研究会 第33回研究集会（2017年8月26日）北海道帯広市とかちプラザ</p>
<p>演題名</p>	<p>明暗周期培養の及ぼすEuglena gracilisのカロテノイド合成への影響</p>
<p>発表者</p>	<p>丹野夕麗*1、加藤翔太**2、朝比奈雅志1,2、高橋宣治1,2、高市真一3、石川孝博4、篠村知子1,2 （1帝京大・院・理工、2帝京大・理工・バイオ、3東京農大・生命科学、4島根大・生物資源） (*H29年度植物分子細胞学研究室大学院生、**植物分子細胞学研究室博士研究員)</p>
<p>内容</p>	<p>私達は、強光による光阻害回避メカニズムとして微細藻類Euglena gracilis（以降Euglena）のカロテノイドの機能に注目しており、本研究では、Euglenaを明暗周期条件で培養した場合のカロテノイド含量とその組成の変化やクロロフィル量の変化を調べ、その結果を報告しました。Euglena細胞は強光阻害を起こさないような光強度でも、明暗切り替えに応じてカロテノイド含量が変化する傾向が認められ、さらに、カロテノイド分子種ごとによって増加傾向が異なることが明らかになりました。今後は、カロテノイドがどのような光制御で調節されているのかを詳しく解析する計画です。</p> <p>本研究の一部は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、および科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受け、学内外の研究者と共同で行いました。</p> <p>本発表により、本学理工学研究科M1の丹野夕麗君が、本研究集会における若手優秀発表賞を受賞しました。</p>
<p>関連画像</p>	